

西暦 2026 年 7 月 16 日

**2011 年 4 月から 2026 年 3 月までに
当院で股関節唇損傷に対して鏡視下手術を受けられた
患者さん及びご家族へのお知らせ**

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」より、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名 股関節唇損傷と大腿骨過前捻角の関連についての検討
2. 研究期間 研究機関の長の許可日～ 西暦 2028 年 8 月 31 日
3. 研究機関 産業医科大学若松病院
4. 実施責任者 産業医科大学スポーツ医学 教授 内田 宗志
5. 研究の目的と意義

この研究は、産業医科大学病院 スポーツ医学 教授 内田宗志を研究代表者とする、神奈川リハビリテーション病院との共同研究です。

目的：股関節唇損傷に対して股関節鏡視下手術を受けた患者さんにおいて、大腿骨のねじれの強さ（大腿骨過前捻）の有無が術後成績に影響するか否かを比較・検討します。

意義：欧米とは異なり大腿骨過前捻を有する患者さんが多い本邦において、大腿骨過前捻の合併が、股関節唇損傷の術後成績に与える影響も明らかになっていません。本邦における、股関節唇損傷での大腿骨過前捻の術後成績への影響を明らかにすることによって、今後の股関節鏡視下手術へのフィードバックが可能となり、今後さらなる股関節唇損傷に対する治療の発展が期待できると考えます。

6. 研究の方法

この研究に参加されることで、通常の診療行為に加えて新たな検体を採取することや、問診・診察が加わることはありません。通常の診療情報、撮影画像を研究に活用します。レントゲンやMRIの計測値、手術手技などが共有されますが、登録症例のデータは初診時に、対象者が特定できないように、研究責任者の厳密な管理の下で、個人と関わりのない記述に置き換えるなどの安全管理措置を行い匿名化した上で集積します。

7. 個人情報の取り扱い

研究期間中・終了後ともに、研究に利用した情報は研究責任者の責任のもと安全管理措置を行って匿名化し、保管されます。本学規定により、研究終了後5年間もしくは当該研究の結果の最終公表について報告された日から3年間は保管します。データは復元不可能な状態に処理して廃棄します。

8. 問い合わせ先

産業医科大学スポーツ医学 教授 内田 宗志
電話：093-761-0090

9. その他

この研究に参加していただいても、謝礼はございません。この研究に関連して行われる検査等は全て通常診療でも行われるもので、この研究に参加したことにより新たに患者さんの費用負担が発生することはありません。

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。この研究は大学の運営費と産業医大若松病院の研究費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません（利益相反はありません）。この研究の実施にあたっては、産業医科大学利益相反委員会に申告を行い、承認されています。